



博士（人間科学）学位論文 概要書

うつ状態の心理的要因としての
ネガティブな反すうの検討

A Study of Negative Rumination
as a Psychological Factor to Depression

2003年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

伊藤 拓

Ito, Taku

研究指導教員： 竹中 晃二 教授

第1章では、代表的な抑うつ心理的要因理論を展望し、特に、抑うつ持続・重症化を取りあげている理論では、共通して「反すう」（物事を長い間繰り返し考えること）が重要な要因とされていることを指摘した。さらに、他の代表的な抑うつ心理的要因理論にも反すうと共通する要素があることを指摘し、抑うつ心理的要因として反すうを取り上げる意義を主張した。そして、反すうと抑うつに関する先行研究の展望を行い、（1）反すうの原因を目的の阻害などに限定している、（2）反すうする対象がポジティブなことなのか、ネガティブなことなのかを区別していない、（3）反すうを測定する尺度は、妥当性や信頼性の検討が不十分であるなどの問題点を指摘した。最後に、これらの問題点を踏まえて、本研究では、反すうの原因は限定せず、対象をネガティブなこととした「ネガティブな反すう」（その人にとって、嫌悪的・否定的なことを長い間繰り返し考えること）という独自の概念を取り上げ、うつ状態との関連を検討することを述べた。

第2章では、本研究の目的と意義を述べた。第1の目的は、ネガティブな反すうがうつ状態を引き起こす心理的要因であるかを検討することである。第2の目的は、ネガティブな反すうとうつ状態との関連の程度と、いくつかの代表的な抑うつ心理的要因とうつ状態との関連の程度を比較することである。第3の目的は、代表的な抑うつ心理的要因がうつ状態を引き起こすメカニズムに、ネガティブな反すうがどのように位置づけられるかを検討することである。以上の検討によって、本研究には、うつ状態を引き起こす上での影響力の大きさが明らかになること、異なる抑うつ心理的要因がうつ状態を引き起こすメカニズムについての理解が進むことなどの意義があることを述べた。

第3章では、ネガティブな反すうを測定するための質問紙の作成を行った。その結果、「ネガティブな反すう傾向」、「ネガティブな反すうのコントロール不可能性」の2因子からなるネガティブな反すう尺度が作成され（研究1）、尺度の妥当性と信頼性が確認された（研究2）。なお、以下の研究では、この尺度を用いてネガティブな反すうの検討を行った。

第4章では、目的1と2を検討するために、ネガティブな反すうと従来の代表的な抑うつ心理的要因との比較を行った。その結果、ネガティブな反すうは、帰属スタイル、非機能的態度、完全主義、メランコリー型性格、執着性格といった代表的な抑

うつ心の心理的要因より、うつ状態との関連が強いことが示された(研究3)。また、「ネガティブな反すう傾向」と「ネガティブな反すうのコントロール不可能性」の相互を統制した上で、うつ状態との関連を検討したところ、うつ状態と関連があるのは、「ネガティブな反すう傾向」だけであることが示された。次に、性格の5因子理論を用いて、「ネガティブな反すう傾向」は、性格の5大因子の中で抑うつと関連が深い神経症傾向と正の相関があるか、およびその相関の程度は、代表的な抑うつの心理的要因と神経症傾向との相関の程度と比べて大きいかを検討した。その結果、「ネガティブな反すう傾向」は、神経症傾向との間に比較的強い正の相関があるとともに、従来の抑うつの心理的要因と比較して、神経症傾向との相関が強いことが示された(研究4)。

第5章では、目的1を検討するために、ネガティブな反すうがうつ状態の発症を予測するかどうかを8ヶ月間の予測的研究によって検討した。その結果、「ネガティブな反すう傾向」はうつ状態の発症の程度を予測することが示された(研究5)。

第6章では、目的1のために、大うつ病患者は、健常者よりもネガティブな反すうが高いかを検討した。その結果、健常者群よりも、大うつ病患者群の方が、「ネガティブな反すう傾向」が高いことが示された(研究6)。

第7章では、目的3を検討するために、代表的な抑うつの心理的要因から、反すう型反応、非機能的態度、執着性格、完全主義を取り上げ、それらの要因がうつ状態を引き起こすメカニズムの中に、ネガティブな反すうがどのように位置づけられるかを検討した。その結果、(1)反すう型反応はうつ状態の程度を予測するが、「ネガティブな反すう傾向」を統制すると、反すう型反応とうつ状態の関連は見られないこと(研究7)、(2)非機能的態度、執着気質、完全主義と「ネガティブな反すう傾向」との間には、正の相関があるとともに、うつ状態を予測するのはネガティブな反すう傾向だけであること、およびそれらの心理的要因がうつ状態を引き起こすメカニズムには、ネガティブな反すう傾向が介在するというモデルが妥当であることが示された(研究8)。これらの結果から、従来の抑うつの心理的要因がうつ状態を引き起こすメカニズムには、ネガティブな反すうが介在することが示唆された。

第8章では、本研究の結果がまとめられるとともに、総合的な考察を行った。